

神戸消防アクションプラン 2025

～スマート化で目指す安全で安心なまち～

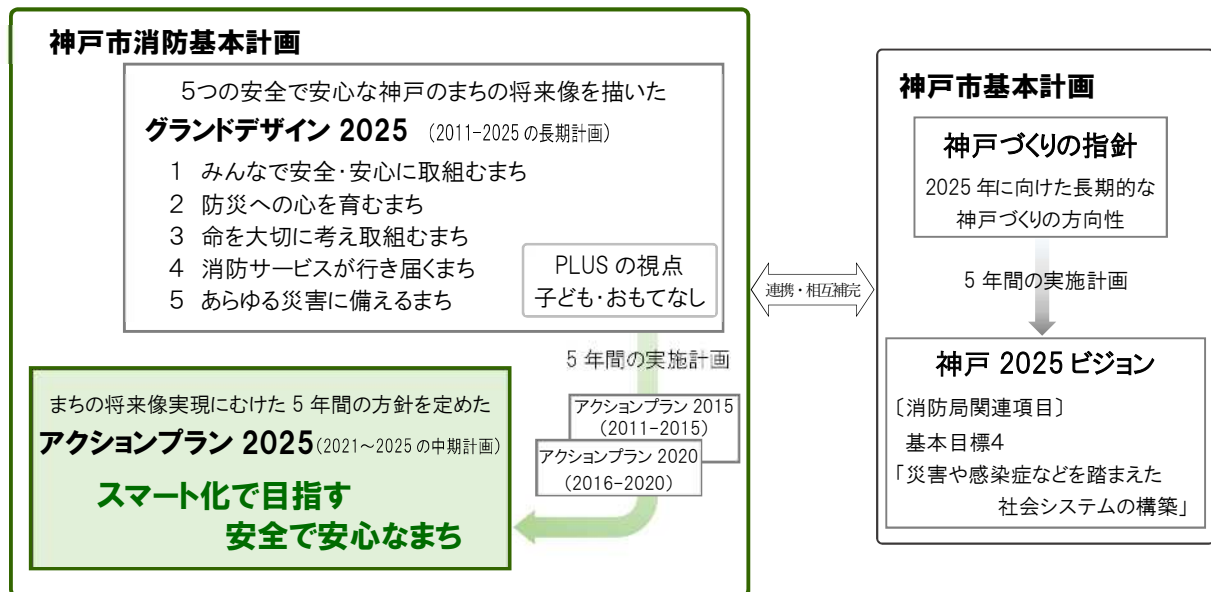
目指す方向性

神戸消防アクションプラン 2025 は、今後5年間における消防局が取組む方向性を定めた計画です。

人口減少・超高齢社会の進展、毎年のように発生する激甚災害、新型コロナウイルス感染症の拡大など大きく社会経済情勢は変化しています。このような状況でも、消防局は安全・安心への取組を推進していくとともに市民の利便性等を向上させていかなければなりません。

そのために、5年間で「やめる・へらす・かえる」を基本的視点に業務を見直したうえで、ICT(情報通信技術)分野をはじめ新たな技術を積極的に導入する**“消防のスマート化”により安全・安心なまちを目指します。**

【神戸市消防基本計画の体系】



最優先項目

これまでの事業の検証や消防局を取り巻く状況から、2025年までに優先して取組む項目を掲げました。

1 最先端技術により火災・自然災害に立ち向かう

火災件数は近年減少していますが、住宅火災による死亡事案は依然として発生しています。また大規模な自然災害も頻発しており、南海トラフ巨大地震への備えも必要です。最先端の技術や知見なども積極的に取り入れながら政令市トップクラスの災害対応力を維持し、被害を最小にするため取組んでいきます。

2 未知の感染症拡大時にも救急搬送体制を維持する

救急件数は全国的に増加傾向にある中、「新型コロナウイルス感染症の拡大」という現代社会が経験したことのない事象も発生しています。超高齢社会の進展のほか、未知の感染症拡大時の対策など様々な要素も踏まえ、資機材確保などの必要な対応を講じることで、安定的な救急搬送体制を維持していきます。

3 DXを推進し多様化する建物や施設の安全を確保する

防火対象物はさらに高層化・複雑化が進み、また、法令改正によってその数自体も増加しています。DX等の取組を積極的に進め、事業者の利便性向上による各種届出・報告などを促進するとともに様々な防火指導を強化することにより、建物や施設の安全確保に繋がっていきます。

(DX:デジタルトランスフォーメーション デジタル技術を活用した変革のこと)

具体的取組方針

グランドデザインで描く5つのまちの将来像、そして2025年までの「最優先項目」の推進にむけ、「PLUS」の視点も加えた具体的な取組の方針を示します。激動の時代において柔軟性をもたせた計画とするため、これらの取組方針を基に毎年度の予算編成の中で具体的な事業を決定し、進捗を管理していきます。

将来像1 みんなで安全・安心に取組むまち

重点施策	取組方針
1 地域の連携充実	・2025年には阪神・淡路大震災から30年を迎えることを踏まえ、「自助・共助・公助」による地域防災力強化のため、引き続き防災福祉コミュニティの支援を進めていきます。 ・地域防災の中核となる消防団の体制を引き続き充実させるとともに、「消防団スマート情報システム」の活用などで、魅力ある消防団づくりを進めていきます。
2 家庭の安全・安心向上	・住宅火災や家庭内事故を防ぐため、住宅用火災警報器の設置や維持管理、熱中症やヒートショックに関する注意喚起などの広報を、様々な媒体を活用しながら継続・強化していきます。
3 建物・施設の防火・防災体制確保	・消防法等に基づく行政手続のオンライン化による事業者の利便性向上に加え、建物や施設の情報管理の電子化を進め、防火指導を効果的に実施することで、事業所等による安全への取組をさらに促していきます。

将来像2 防災への心を育むまち

4 防災教育・研修の充実	・防災福祉コミュニティ等と連携した防災教育の支援を継続するとともに、体験型の防災研修を充実させることで、防災意識の向上を図っていきます。
5 防災情報の発信	・ホームページの充実により、見やすくわかりやすい情報提供を行うとともに、SNSやデジタルサイネージなど新たな広報媒体を積極的に取り入れ、効果的な防災情報の発信を行っていきます。
6 職・団員教育の充実	・職・団員の教育にICTを活用するなど、効率的・効果的な教育・研修を推進していきます。 ・人材育成基本計画に基づき、プロフェッショナルな職員を育成していきます。

将来像3 命を大切に考え取組むまち

7 応急手当の普及	・市民救命士講習の実施にICTを導入するほか、「KobeLive119」を用いることで、市民による効果的な救命活動に繋げていきます。
8 救急高度化	・医師等と連携して救急活動の分析・改善を行うほか、救急救命士の効果的な養成・研修体制を確保することにより、救命率の維持・向上を目指していきます。
9 救急需要対策	・超高齢社会が進展する中、未知なる感染症拡大が及ぼす影響などの要素も踏まえ、機動的な救急隊の運用や感染症資機材の確保により、安定的に救急サービスを提供していきます。

将来像4 消防サービスが行き届くまち

10 施設・装備の充実	・大規模な自然災害や感染症の発生時においても安定的に消防機能が維持でき、女性が活躍しやすい環境を備えた消防庁舎の整備を進めていきます。 ・多様化する災害に対応できる消防車両や活動機材の充実強化を図っていきます。
11 ICT化の推進	・これまでの業務の進め方について点検・見直しを行い、行政手続の電子化など各分野におけるICT化の取組を積極的に進めることで、市民サービスを向上させていきます。
12 体制強化	・人口動態や社会情勢の変化などに応じた消防体制を分析・検討し、西神南出張所の新設等消防力の充実・強化を図っていきます。 ・ライフステージに応じた働き方を推進し、多様な人材が活躍できる組織づくりを目指していきます。

将来像5 あらゆる災害に備えるまち

13 他機関連携の強化	・大規模災害や広域災害時においても他機関と連携し、効果的な災害活動を実施するため平常時から他機関との連携体制を引き続き確保していきます。 ・複雑・多様化する災害に対応するため、大学などの研究機関や民間企業との連携により、ドローンなどの資機材や装備等について、最新の技術や知見を基にした研究を進めていきます。
14 災害対応力の向上	・政令市トップクラスの災害対応力を維持していくため、効果的な訓練を実施するとともに、最先端の資機材や車両、ICTに関する有効性を検証し、積極的な導入に繋げていきます。
15 事例の反映	・発生した火災を調査し、市民の安全に繋がる火災実験動画の配信などの広報を充実させることで同じような火災の発生を未然に防いでいきます。 ・様々な災害現場における隊員の活動を検証し、現場活動の安全性を高めていきます。

神戸らしさに「PLUS」の視点

PLUS 子ども	・阪神・淡路大震災を経験していない市民や職員が半数を超える中、様々な機会を捉えて震災を知らない子供たちに、震災の教訓を伝承していく取組を進めていきます。
PLUS おもてなし	・神戸で働く方、学ぶ方、訪れる方に対し安全・安心を通じた神戸の魅力を発信し、就職や定住に繋がる取組を進めていきます。